

令和 8 年 6 月中央市定例教育委員会 議事録

(1) 開会及び閉会に関する事項並びにその年月日時

令和 8 年 6 月 5 日（金曜日） 午後 2 時 00 分から午後 3 時 30 分

(2) 出席及び欠席委員の氏名

出席者 石田秀博教育長、河西忠衛教育長職務代理者、石原英一教育委員
薬袋美和教育委員、望月孝之教育委員

欠席者 なし

(3) 委員及び傍聴人を除く議場に出席した職員の職氏名

窪田雅一教育総務課長、有泉浩貴生涯教育課長、諸星嘉史教育指導監、田中伴泰部活動地域展開統括コーディネーター、田中基博主幹、村松美里副主幹、井上千草事務補助

(4) 出席した長及びその事務局部の職員の職氏名

なし

(5) 教育長の報告の要旨

- ・令和 9 年度県教育施策及び予算に関する要望書について
- ・中央市玉穂 B & G 海洋センター指定管理期間満了に伴う今後の手続きについて

(6) その他（事務局報告事項）

- ・令和 8 年 6 月・7 月の教育委員会関係行事予定について
- ・中央市小中学校における熱中症対策・防災強化のためのウォータースタンド設置について
- ・市立学校における加配（中央市会計年度任用職員の配置）について

(7) 協議事項

- ① 部活動の地域展開について
- ② 中央市の I C T 教育の取り組みについて
- ③ その他
 - ・玉穂中学校体育施設（柔剣道場）の利用時間外の使用について

(8) 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

(9) 議事の概要

別紙のとおり

(1 0) 決議事項

①部活動の地域展開について

→ 原案のとおり承認される。

②中央市の I C T 教育の取り組みについて

→ 原案のとおり承認される。

③その他

・玉穂中学校体育施設（柔剣道場）の利用時間外の使用について

→ 原案のとおり承認される。

(1 1) その他教育長が必要と認めた事項

なし

○ 議事録

教育長 委 員	協議事項の説明員及び会議の書記について、入室の承認を得たいと思うがどうか。 異議なし。
教育長	1. 開会、あいさつ これから6月の定例教育委員会を開会する。
教育長	2. 前回の議事録の承認 委員各位のお手元に届いている5月定例教育委員会及び臨時教育委員会の会議録について、内容等において疑義等はあるか。
委 員	異議なし。
教育長	3. 報告事項 ・教育長からの諸報告 令和9年度県教育施策及び予算に関する要望書について、中央市玉穂B & G海洋センター指定管理期間満了に伴う今後の手続きについて報告。
事務局	・事務局からの報告事項 令和8年6月・7月の教育委員会関係行事予定について、中央市小中学校における熱中症対策・防災強化のためのウォータースタンド設置について、市立学校における加配（中央市会計年度任用職員の配置）について報告。
事務局	4. 協議事項 (1)部活動の地域展開について、担当者より説明。
教育長	質問・意見等あるか。
委 員	特になし。
事務局	(2)中央市のICT教育の取り組みについて、担当より説明。
教育長	質問・意見等あるか。
委 員	教育長から、中央市のICT教育のレベルは近隣市町村より上だという話を聞くが、説明を受けて、納得した。ただ、学校訪問で授業を見る限りこれらが均一化されておらず、十分に行き渡っていないと感じた。今回、学校訪問で見たところ、私の意見だが、ある学校の授業ではタイピングが非常に上手だったこと、さきほど説明があった振り返りをまさしく実践していたこと、ICT機器を道具としてしっかり活用されていること、先生方の教育も非常によく行われているということを感じた。一方、先生方には講座を実施しているようだが、実際に全員が受講しているのか気になる。ある学校では、低学年のときはほとんどタブレットを使用していなかった。使用頻度は週に1回程度で、家庭には持ち帰ることもなかった。先生によって指導の差があるため、計画を滞りなく進めるためには、そうした差を解消する必要がある。強力なサポート体制によって、この内容が現実的に、全体の8割の先生方に伝われば、非常に素晴らしいと思うのでぜひお願いしたい。

事務局 委員	各校の格差については大きな課題と認識している。 均一化できるよう工夫をお願いしたい。また、授業に使った資料を蓄積して8校で共有するなど工夫次第で働き方改革に繋がると思う。ICTの活用によりもっと子どもに向き合う時間が増えるようお願いしたい。
事務局 委員	前の先生が作成した資料を引き継いで使える仕組みの活用など、工夫していきたいと思う。 今年は第2フェーズに入り、3年目にあたる段階になっているはずなので、今年のモデル校のICT教育の実践にあたって小中学校の連携は非常に重要であると感じている。 地域性を考慮すると、地域格差や学校格差、学校内格差をどのように捉えるべきか、また、校内研究や授業のモデル化にあたり、どこで、どのような場面で、こういった手法でツールを使うか。子どもの個性や学校の属性、実態、特徴を踏まえたうえでモデルをつくり、どのような場面でどのように使うことが効果的か、というところまで踏み込むことが求められる。 さらに今年は学校訪問の際にも強く伝えているが、授業内で振り返りをどのように行うのか、例えばノートに書き留めるのか、それともタブレットを活用するのか、といった具体的な方法論を検討する必要がある。一度タブレットで記録された内容をノートに書き留めることで、読むだけではなく振り返りの効果が期待できる。また、共有することでこれまで多くの時間を費やしていた部分が効率化され、それによって生まれた時間を、さらに探求的な学びへ充て、生涯学び続ける力を養うことに繋がる。 現在、AIや情報リテラシーの問題も課題となっているが、AIが提示する情報がフェイクか否かを、何を基準にして見極めるべきかが重要である。例えば、書籍や信頼できる一次情報との比較などを行い、根拠を確認しつつ活用することが大切と思う。 校務DXについては、教員にとって業務を効率化できる一番のポイントであり、それが働き方改革にも直結する。現在の校務DXの進捗状況や具体的な活用法について精査し、DXをさらに推進することで、教員が授業に特化し学力向上に集中できる環境が整えられる。これらが安定すれば、本市のかなりの課題解決が達成できるのではないかと。
事務局 委員	校務DXの活用により、先生方が子どもに向き合う時間を増やせるよう支援方法についても課題にさせていただく。 教員の意識改革が重要と思う。教員の意識をどう変えさせるか、これは管理職の役割である。
事務局 委員	管理職の方々にも一緒に協力いただきすすめていきたい。 今後、生成AIは避けて通れない存在であり、子どもたちはこれから必ず使用していかなければならないものなので、どんな点に気をつけるべきか、モラルやルールといった点について現時点から継続的に考えていく必要がある。AI関連の技術に関しては、今後の進化に伴い問題点もまた変化するので、AIが大きな変化を遂げる中、技術進歩に合わせた形でバージョンアップさせ、子どもたちが自ら対応できるよう、ぜひ適切な知識を身につけさせていただきたい。

事務局	今後もモラル研修を継続的に行う予定である。定期的に支援を続ける必要がある重要な課題だと認識している。
委 員	予想以上にしっかりとしたサポート体制が整備されていることに驚いたと同時に、教員の考え方を変えていく必要性を感じた。
事務局	(3)その他、玉穂中学校体育施設（柔剣道場）の利用時間外の使用について、生涯教育課長より説明。
教育長	質問・意見等あるか。
委 員	特になし。
教育長	その他何かあるか。
委 員	特になし
	5. 閉会
教育長	これをもって、6月の定例教育委員会を閉会する。